

AILA 2008のご案内
ドイツ応用言語学会(GAL e.V.)

「複言語主義:挑戦と機会」というテーマの下、2008年8月24日から29日に、デュースブルク・エッセン大学において、国際応用言語学会第15回世界大会が開催されます。この催しは AILA、デュースブルク・エッセン大学、エッセン会議センター(CCE)、並びに経済界及び地方自治体から多くの協力を得て、ドイツ応用言語学会(GAL)が運営するもので、世界各地から、1500名の代表の参加が見込まれています。私たち主催者は、政治、経済、学術、そして教育分野からさらなる協力を仰ぎ、すでに現時点で、大会プログラム中の公式行事の企画立案に参加されるよう、願っています。

AILAとは、国際応用言語学会(Association Internationale de Linguistique Appliquée)の略称です。この学会には、30を超える国々の団体と、学術分野や言語政策分野、実践分野から8000人以上の個人が加盟しています。また、この学会は非政府組織(NGO)として、ユネスコとの定期的な交流を行っています。

言語的な多様性のあるヨーロッパという背景を考えれば、この地域で行われる応用言語学の世界大会において、複言語・複文化という観点が議論の中心になることは容易に理解されることでしょう。欧州連合と欧州評議会の言語政策は、この大陸における多言語かつ多文化の伝統を、挑戦すべき課題としてだけでなく、豊かさとしても捉えるというものです。AILA 2008の開催地である、多様な文化的伝統を持つルール地方の例をみれば、21世紀初頭の構造的かつ文化的な変化において、これらの資産がいかに豊かな実りをもたらさうかということは、お分かりになると思います。

大会では、特に実践と学術の間の対話を促進します。そこで論じられるのは、とりわけ言語政策と教育政策の問題、それから、企業や行政における、またそれらによるコミュニケーションの問題、メディアコミュニケーションの問題、そして専門家と非専門家間の意思疎通の問題などです。

文化的な多層性を持ったドイツ、そして産業革命の時代からの特別な多文化が根をおろし伝統となっている地域である、まさにここルール地方は、こうしたテーマを掲げた会議にとりわけ適していると、私たちは確信しています。

AILA 2008
2008年8月24日～29日
ドイツ・エッセン市

私たちは、エッセンで行われる第 15 回国際応用言語学会世界大会に、皆さんをお迎えできることを楽しみにしています。

ドイツ応用言語学会(GAL e.V.)

協力：デュースブルクエッセン大学、エッセン会議センター、エッセン市